

- ・ 本調査は、例年発表している「京都観光総合調査」について、感染症拡大の状況を踏まえ、四半期毎に実施する観光客への面接調査等を可能な範囲で実施したものである。
- ・ 日本人観光客を対象とした調査は令和元年以来3年ぶりに通年（四半期全て）で実施できたが、外国人観光客を対象とした調査は通年では実施できなかったこと等から、次の取扱いとした。

外国人観光客数、外国人観光客の観光消費額単価、満足度調査、実態調査、持続可能な観光に対する意向調査 … 調査結果なし
 観光消費額、経済波及効果 … 参考値（本市独自推計）

<主要調査結果 (topics) >

- 令和4年は、まん延防止等重点措置（1月27日～3月21日）や新型コロナウイルス感染症の再拡大（第6波～第8波）があった一方で、訪日客の観光目的の入国受入再開（6月10日）や個人旅行受入、査証免除措置の再開（10月11日）など、旅行需要を取り巻く環境の大きな変化があった。

1	観光客数	<u>4,361万人</u>	（3年比	※参考（2,102万人）、元年比 ▲18.5%	（5,352万人））
2	観光消費額	<u>1兆179億円</u> *	（3年比	※参考（4,457億円）、元年比	※参考（1兆2,367億円））
3	宿泊客数（実人数）	<u>969万0千人</u>	（3年比 +87.5%	（516万8千人）、元年比 ▲26.4%	（1,316万6千人））

➡ 令和3年比で宿泊客数が+87.5%となるなど、**令和3年から反転、回復基調**を見せる一年となった。
 他方、令和元年比では、観光客数は▲18.5%、宿泊客数は▲26.4%との結果に。

※ 令和2、3年の観光客数及び令和2～4年の観光消費額は、全国统一基準に基づかない本市独自推計。他の年との時系列による比較はできない。

（宿泊客数内訳）

(1) 日本人（実人数） 911万4千人（3年比 +78.2%（511万4千人）、元年比 ▲2.7%（936万7千人））

➡ 令和3年比+78.2%、令和元年比▲2.7%との結果に。新型コロナの再拡大等があったものの、**令和元年に近い宿泊客数**となった。

(2) 外国人※（実人数） 57万6千人（3年比 +966.7%（5万4千人）、元年比 ▲84.8%（379万9千人））

➡ 国による本格的な受入再開が行われた10月以降回復基調に転じたが、令和元年比では▲84.8%と、**結果として僅かな回復幅**に留まった。

※ 外国人宿泊客数には日本在住の外国人も含む。

4 修学旅行生数（実人数） 74万3千人（3年比 +202.0%（24万6千人）、元年比 +5.5%（70万4千人））

➡ 令和3年比+202.0%、令和元年比+5.5%と、**コロナ禍以前を上回る**結果となった。

<主要調査結果（詳細）>

1 観光客数 (P.9)

区分	令和4年	令和3年 本市独自推計※	令和元年
観光客数	4,361万人	2,102万人	5,352万人

※ 令和3年は本市独自推計値。他の年との時系列による比較はできない。

2 観光消費額、経済波及効果（参考） (P.6)

区分	令和4年 本市独自推計※	令和3年 本市独自推計※	令和元年
観光消費額	1兆 179億円	4,457億円	1兆2,367億円
経済波及効果	1兆1,040億円	4,885億円	1兆3,569億円

※ 令和3、4年は本市独自推計値。他の年との時系列による比較はできない。

3 宿泊客数 (P.10)

区分	令和4年	令和3年	令和元年
実人数	969万0千人	516万8千人	1,316万6千人
延べ人数	1,379万6千人	727万7千人	2,125万3千人

平均宿泊日数 R④ 1.42泊、R③ 1.41泊、R① 1.61泊

▶ 日本人宿泊客数

区分	令和4年	令和3年	令和元年
実人数	911万4千人	511万4千人	936万7千人
延べ人数	1,253万3千人	715万3千人	1,295万9千人

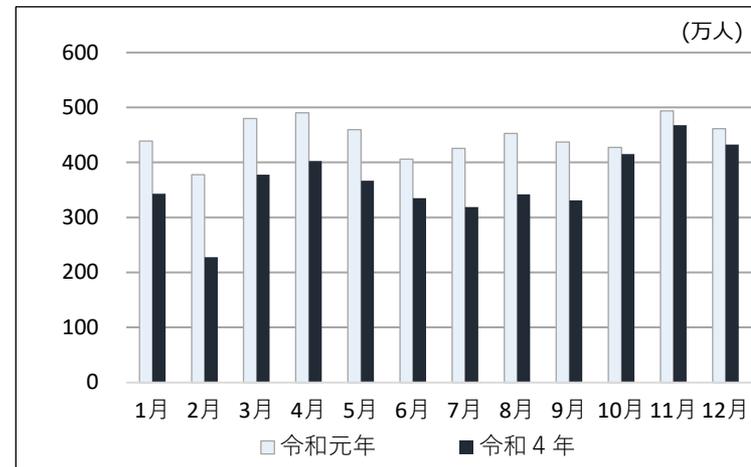
平均宿泊日数 R④ 1.38泊、R③ 1.40泊、R① 1.38泊

4 修学旅行生数 (P.16)

区分	令和4年	令和3年	令和元年
実人数	74万3千人	24万6千人	70万4千人
延べ人数	117万2千人	35万6千人	121万4千人

平均宿泊日数 R④ 1.58泊、R③ 1.45泊、R① 1.73泊

【図表1】月別観光客数



※ 令和3年の観光客数の月別の推計値は無い。

▶ 外国人宿泊客数 (P.12)

区分	令和4年	令和3年	令和元年
実人数	57万6千人	5万4千人	379万9千人
延べ人数	126万3千人	12万4千人	829万4千人

平均宿泊日数 R④ 2.19泊、R③ 2.27泊、R① 2.18泊

<日本人観光客 実態等調査結果 (topics) >

1 観光消費動向調査 (P.23)

▶ 日本人観光消費額単価

宿泊客 **R④ 59,490円** (R① 54,970円)
 日帰り客 **R④ 12,244円** (R① 11,054円)

2 満足度調査 (P.27)

- ▶ 京都観光の総合満足度 **R④ 95.2%** (R① 91.3%)
- ▶ 感動があった観光客の割合 **R④ 80.0%** (R① 75.0%)
- ▶ おもてなしを感じた観光客の割合 **R④ 57.1%** (R① 52.9%)
- ▶ 残念なことがあった観光客の割合 **R④ 36.6%** (R① 44.7%)

3 実態調査 (P.33)

▶ 訪問回数

初めて **R④ 1.9%** (R① 1.4%)
 2回目以上 **R④ 42.0%** (R① 39.5%)
 10回目以上 **R④ 56.1%** (R① 59.1%)

▶ 訪問時間

朝 6時～ 9時 **R④ 16.0%** (R① 14.1%)
 夜18時～21時 **R④ 12.8%** (R① 15.3%)

4 持続可能な観光に対する意向調査 (P.49)

令和3年から調査開始
 通年の調査結果が揃ったのは本調査が初！

- ▶ 旅行中はなるべく徒歩、自転車、公共交通を使いたいと考えている観光客の割合 **R④ 49.4%**
- ▶ 文化や文化財の維持に貢献したいと考えている観光客の割合 **R④ 43.2%**
- ▶ 訪問先の地域を思いやる行動を取った観光客の割合 **R④ 66.7%**
- ▶ 環境に配慮した行動を取った観光客の割合 **R④ 86.5%**
- ▶ 飲食・買い物の際に京都産の食材や商品を選んだ観光客の割合 **R④ 73.7%**

四半期毎に実施している観光客へのアンケート調査結果
 (2,5,8,11月実施)

日本人観光客の調査は、令和元年以来3年ぶりに通年で実施できたが、外国人観光客の調査は通年では実施できなかったため、日本人観光客の調査結果のみを表す。

【図表2】観光消費額単価 (円)

区 分	令和4年		令和元年	
	宿 泊	日 帰 り	宿 泊	日 帰 り
市内交通費	4,868	1,483	4,798	1,373
宿 泊 代	22,396	—	19,770	—
買 物 代	12,336	5,166	12,231	4,762
飲 食 費	15,153	3,879	13,585	3,380
入場料・拝観料	3,482	1,256	3,104	1,011
そ の 他 (文化体験費用等)	1,255	460	1,482	528
合 計	59,490	12,244	54,970	11,054

【図表3】入場料等の平均支出額 (円)

区 分		宿 泊	日 帰 り
入場料・ 拝観料	美術館・博物館	3,382	1,907
	そ の 他	4,009	2,080
文化体験費用		8,701	3,646

※「入場料・拝観料」、「文化体験費用」の各区分ごとに支出したサンプルのみを抽出した平均単価を表す。

【参考1】持続可能な京都観光の実現に向けた令和5年度の主な取組

＜取組の視点＞

- **市民の暮らしの豊かさの向上、地域や社会の課題解決、SDGsの達成に貢献し、感染症や災害などの様々な危機や環境問題に対応していく持続可能な観光**を実現する。
- とりわけ京都観光の本格的な回復が見込まれる令和5年度は、市民生活と観光の調和を最重要視し、一部観光地の混雑などの観光課題対策の充実・強化を図るとともに、観光関連事業者による地域貢献をはじめ「京都観光行動基準（京都観光モラル）」の普及・実践の促進や、観光に対する市民の共感の輪の拡大を図る。
- 併せて、京都観光モラルや観光マナーの多言語発信強化など、観光客による市民生活に配慮した行動をより一層促進する形で京都観光の振興を図り、観光がもたらす効果を着実に都市の成長につなげる。

＜持続可能な京都観光の実現に向けた令和5年度の主な取組＞

1 観光課題対策

▶ 混雑対策

- ・ 時期・時間・場所の3つの分散化
[時期] 閑散期における誘客キャンペーンの実施
[時間] 朝・夜観光の推進、事前予約の体験プラン充実、宿泊観光の振興
[場所] 「とっておきの京都プロジェクト」の推進及び実証事業等への伴走型支援 **【R4新規・継続】**
- ・ ビッグデータ等を活用した混雑状況・観光快適度の発信強化 **【R5充実】**
- ・ 手ぶら観光情報サイト「Hands Free Kyoto」発信強化等 **【R5新規】**
- ・ 観光バスの路上滞留対策事業 **【R5充実】**

▶ マナー啓発

- ・ 国内外の旅行業界等へのマナー啓発協力要請
- ・ 外国人観光客向け啓発コンテンツ等を活用した啓発
- ・ 地域の実情に応じたマナー問題等の観光課題対策事業への支援
- ・ SNSや公式ホームページ等を通じたマナー啓発

▶ 宿泊施設のより一層の質の向上

- ・ 宿泊施設等と連携した京都経済の域内循環促進事業 **【R4新規・継続】**
- ・ 事例集の活用による、宿泊施設の開業窓口等における地域貢献等の優良事例の周知
- ・ 旅館をはじめとする宿泊施設の経営強化・魅力発信支援

2 市民生活と観光の一層の調和の推進

▶ 京都観光モラルの普及・実践の促進

- ・ 特設サイト等による観光客、観光事業者に向けた情報発信
- ・ 持続可能な京都観光を推進する優良事業者表彰 **【R4新規・継続】**
- ・ 観光事業者への京都観光モラルの普及促進事業 **【R5新規】**

▶ 観光に対する市民の共感の輪の拡大

- ・ 観光の効果の見える化リーフレット等を活用した周知
- ・ 観光教育に係る学習機会の醸成

3 観光振興による都市の成長の推進

▶ 国内観光の振興

- ・ 修学旅行体験学習支援事業 **【R5新規】**

▶ 持続可能なインバウンド観光の促進

- ・ 京都観光モラルをはじめとする情報発信の強化 **【R5新規】**
- ・ 認定通訳ガイドを活用したサステナブルなモデルツアーの造成等の受入環境整備 **【R5新規】**
- ・ SDGsに寄与する上質な観光コンテンツの造成支援、プロモーション等の実施 **【R5新規】**
- ・ 万博に向けた機運醸成・誘客誘致等推進事業 **【R5新規】**

▶ MICE誘致強化

- ・ SDGsに資する活動を推進するMICE主催者への支援 **【R5新規】**

このほか、市バス・道路の混雑、観光客の京都駅一極集中への対策や民泊対策等、関係部局とも連携のうえ、全庁を挙げて取組を推進

【参考2】 京都観光総合調査（観光客の動向等に係る調査） 調査手法【概要】

- 京都市では、「京都観光総合調査」（観光客の動向等に係る調査）について、昭和33年から、60年以上の長きにわたり、内容を充実させながら実施してきた。現在の調査手法は以下のとおり。
- これに加え、令和3年から新たに「京都観光に関する市民意識調査」、「京都観光事業者実態調査」及び「京都観光従事者実態調査」（DMO KYOTO）を実施し、京都観光を取り巻く現状の総合的な把握に努めている。

観光客の定義

観光客とは、観光目的だけでなく、ビジネス、買物、イベント、観劇、スポーツ、友人・知人訪問等の目的で入洛した人を指し、市外在住で通勤、通学以外の目的で入洛した人全てを含む。

観光客数調査

「観光入込客統計に関する共通基準（平成21年12月観光庁策定）※」（全国統一基準）に基づく手法により調査し、各月及び総数を推計。

※ 京都市の都市特性を反映させながら全国統一基準にも合致する統計手法で実施。

共通基準	観光地点を訪れた観光入込客数から推計。
本市の手法	京都市域全体を一つの観光地点と見立てて交通手段別（鉄道、バス、車）の入込客数と各交通手段の利用者への聞き取り調査を基に、観光客数を推計。

宿泊客数、修学旅行生数調査

本市宿泊税データを基に、観光庁から提供される宿泊客数データや京都市内の宿泊施設へ依頼する宿泊客に関するアンケートを活用し推計。

消費動向、満足度、実態、持続可能な観光に対する意向調査

※ **コロナ禍の影響により、外国人観光客を対象とした通年調査は実施できなかった**

調査時期(年4回)、曜日、時間を概ね合わせたうえで無作為に調査対象者を抽出、郵送回答や面接聴取の方法により調査。

区分	調査
調査時期	冬期（2月）、春期（5月）、夏期（8月）、秋期（11月）
調査場所	【日本人】市内の主要な鉄道駅、観光施設等、全13箇所 【外国人】市内の主要な観光施設等、全6箇所
調査項目	居住地、利用交通機関、目的、日数、性別、年齢、動機、市内訪問地、観光消費額、感想、満足度 など
サンプル数	【日本人】 4,400 【外国人】 1,600